



第2期おおむら支え合いプラン策定

---

# 地域での支え合い 団体アンケート 結果報告

---

令和2年7月

大 村 市



# 目次

## 1 アンケートの概要

(1) アンケートの目的 .....	1
(2) アンケートの実施概要.....	1

## 2 アンケートの結果

<b>1 団体のこと</b>	(1)基本情報について .....	2
	(2)活動状況について .....	7
	(3)困っていることや課題について.....	8
	(4)活動の活性化に必要なことについて .....	9
<b>2 地域のこと</b>	(1)地域で気にかかる人・ご意見について .....	10
	(2)地域の問題点や課題について.....	12
	(3)地域で力を入れて取り組むべきことについて.....	13
<b>3 その他</b>	ご意見をお聞かせください.....	14

# 1 アンケートの概要

## (1) アンケートの目的

このアンケートは、第2期おおむら支え合いプランの策定に伴い、福祉団体やNPO法人、ボランティア団体等が地域で活動する中で感じる「地域の課題」や「組織の課題」などを調査し、第2期計画に取り組むべき事項の整理を行うため実施しました。

## (2) アンケートの実施概要

対象団体 170団体

【内訳】	◇関係団体	34団体	(構成比 20.0%)
	※町内会長会連合会	など	
	◇福祉関係団体	25団体	(構成比 14.7%)
	※民生委員児童委員協議会連合会	など	
	◇障がい者関係団体	7団体	(構成比 4.1%)
	◇子育て関係団体	13団体	(構成比 7.6%)
	◇ボランティア団体	60団体	(構成比 35.3%)
	◇NPO法人	31団体	(構成比 18.2%)

実施期間 令和2年6月16日(火)から7月3日(金)

調査方法 郵送による配布、回収

調査内容 1 団体のこと

- (1) 基本情報について
- (2) 活動状況について
- (3) 困っていることや課題について
- (4) 活動の活性化に必要なことについて

2 地域のこと

- (1) 地域で気にかかる人・ご意見について
- (2) 地域の問題点や課題について
- (3) 地域で力を入れて取り組むこと

3 その他

- (1) 自由意見記載欄

回収状況 135件 (回収率 79.41%)



## 2 アンケートの結果

- ・グラフは、回答団体数 135 団体に対する比率を記載しています。
- ・単回答では、小数点第 2 位以下を四捨五入し表示しているため比率の合計が 100.0%とならないことがあります。
- ・複数回答では、回答団体数に対しての比率であるため、比率の合計が 100.0%を超えることになります。

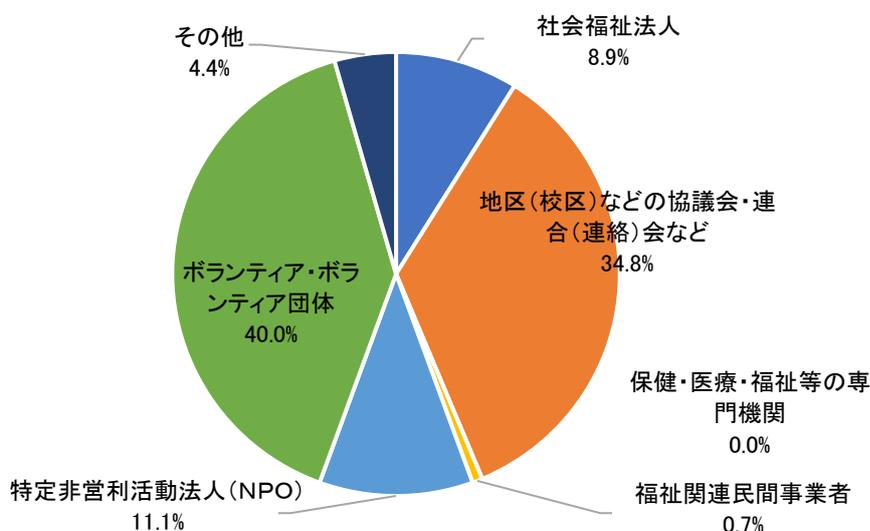
### 1 団体のこと

#### (1)基本情報について

#### ◆問1 貴団体の名称、組織形態を教えてください。(単回答)

##### ※団体名称省略

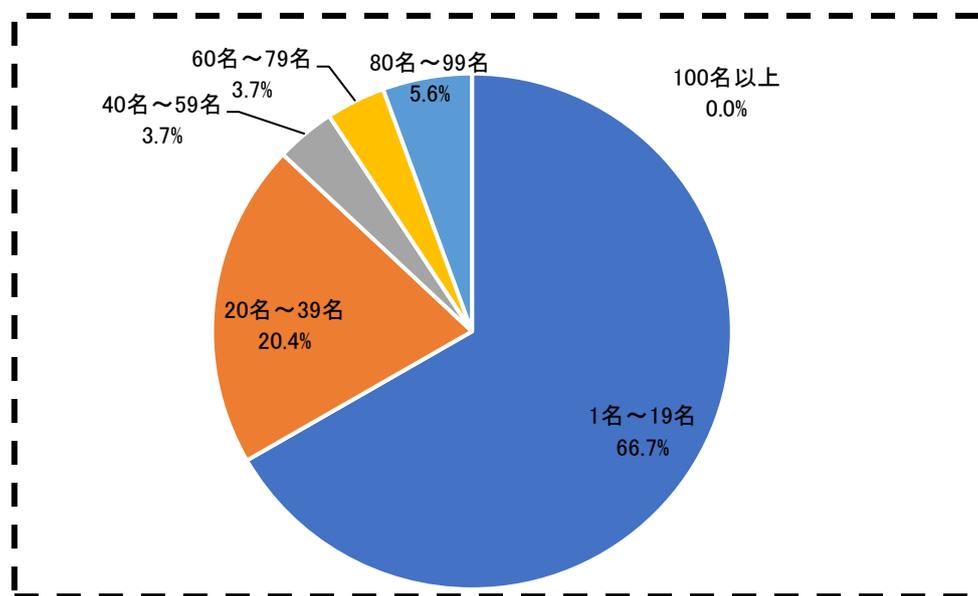
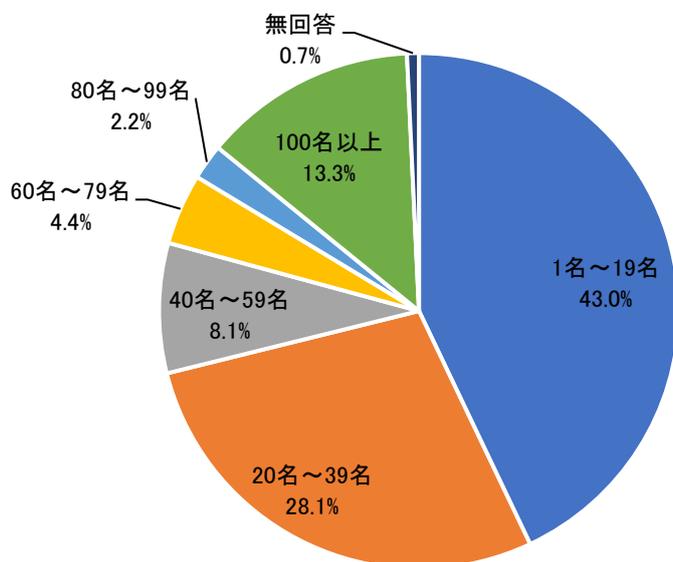
団体の組織形態は、「ボランティア・ボランティア団体」が最も多く、以下「地区（校区）などの協議会連合（連絡）会など」、「特定非営利活動法人（NPO）」となっています。



◆問2 貴団体のメンバー数について教えてください。(単回答)

団体のメンバー数は、「1名～19名」が最も多く、以下「20名～39名」、「100名以上」となっています。

ボランティア団体に限定すると、「1名～19名」が66.7%で最も多く、小規模な団体が多いことが分かります。



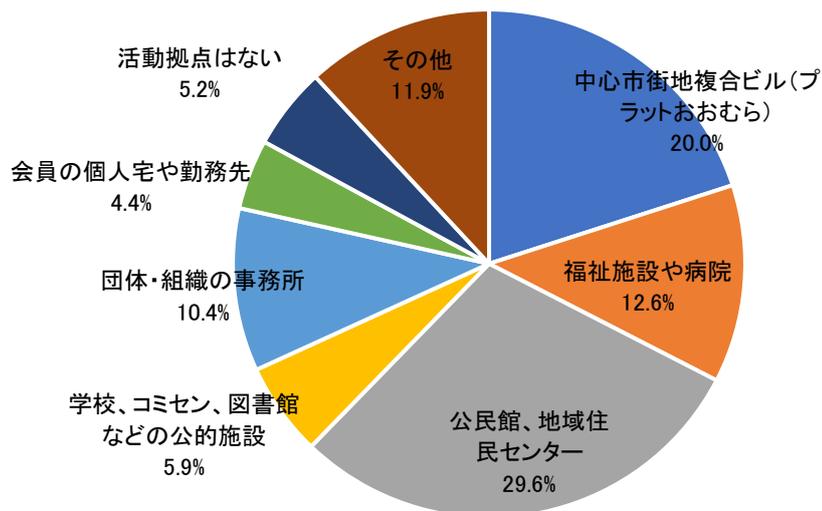
【参考】ボランティア団体（54団体）のメンバー数



◆問3 貴団体の主な活動拠点はどこですか。(単回答)

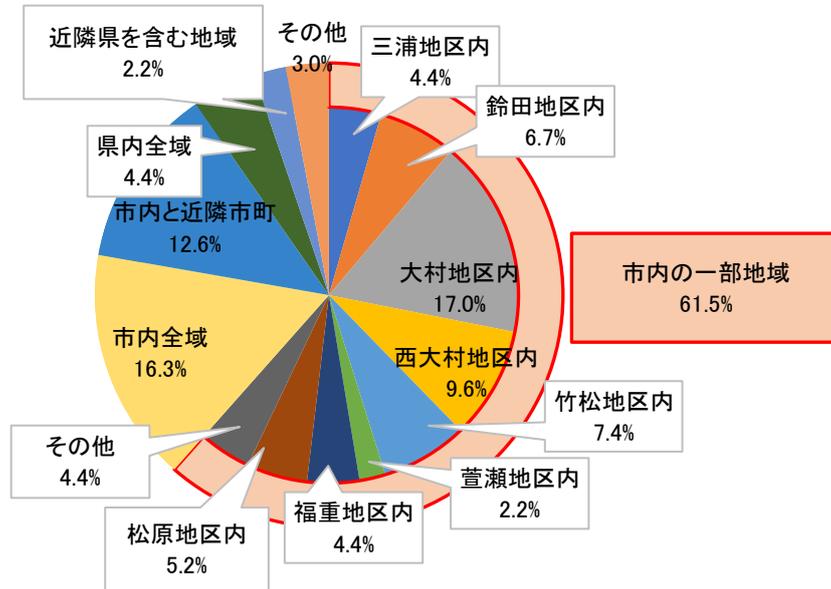
活動拠点は、「公民館、地域住民センター」が最も多く、町内や地区を単位とした地域で活動している団体が多いことが分かります。以下「プラットおおむら」、「福祉施設や病院」となっています。

その他としては、「こどもセンター」、「こども園」、「店舗の一室」、「通学路・交差点（見守り）」などがありました。



◆問4 貴団体の活動範囲はどれですか。(単回答)

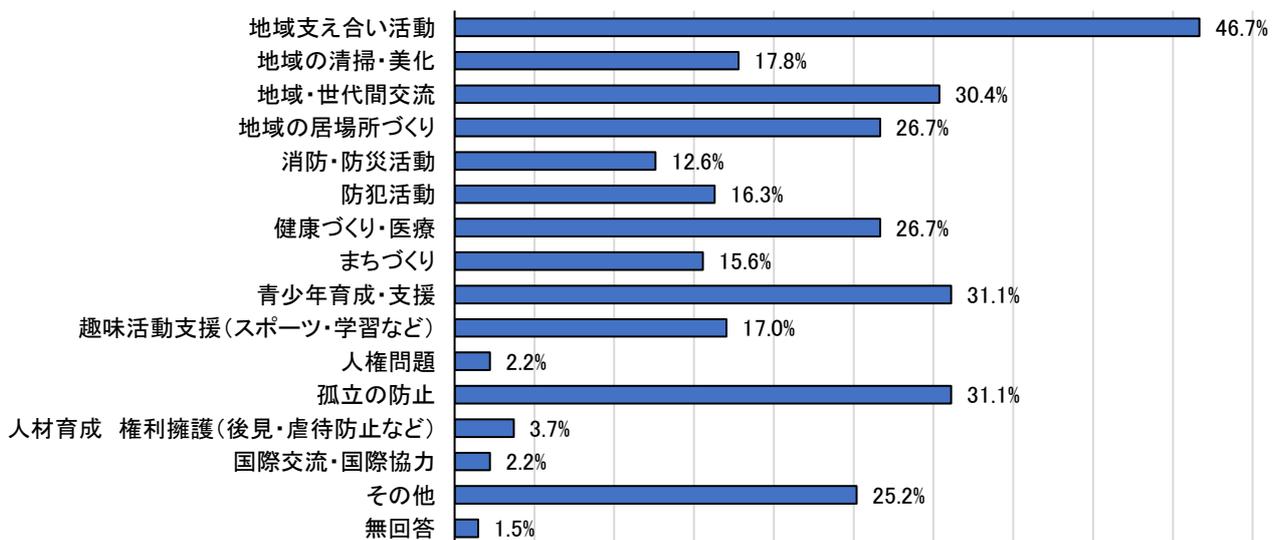
活動範囲で最も多かったのは、「市内の一部地域」で、地区別で見ると「大村地区内」が最も多くなっています。



◆問5 貴団体で取り組んでいる活動の分野はどれですか。(複数回答)

活動分野は、「地域支え合い活動」が最も多く、以下「青少年育成・支援」、「孤立の防止」となっています。

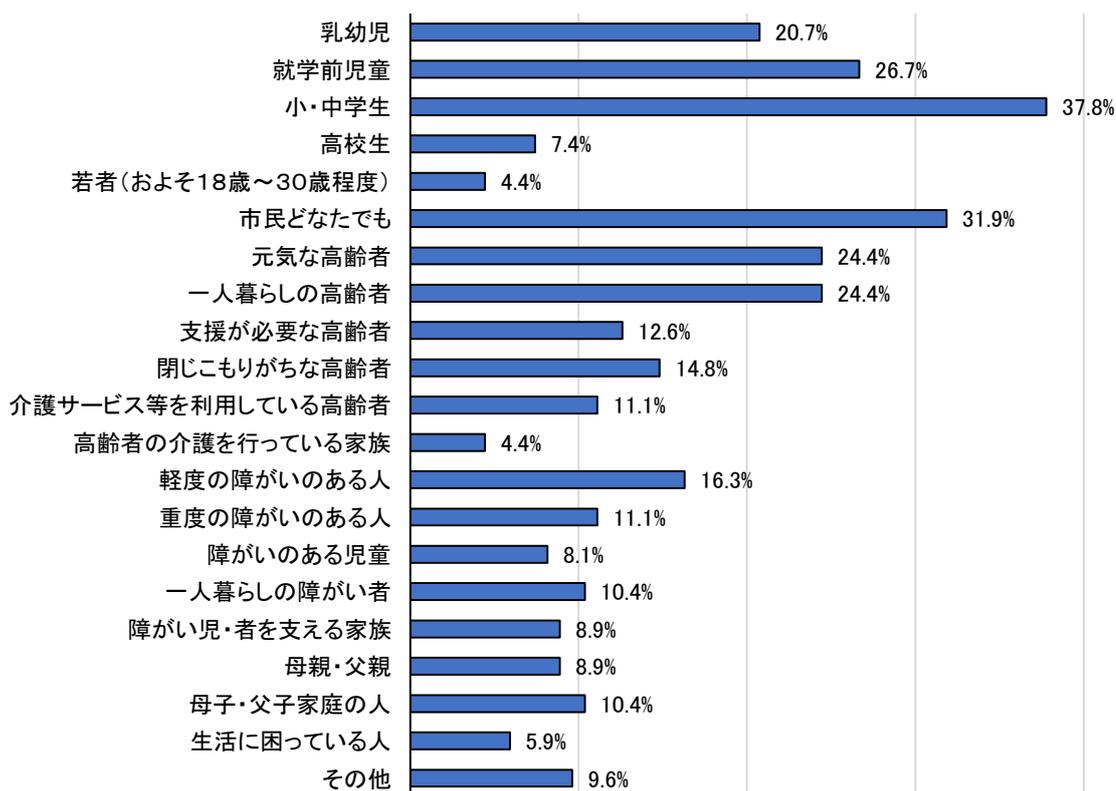
その他としては、「障がい者・高齢者支援」、「子育て支援」、「通学路等見守り」、「交通安全指導」、「手話講座」、「伝統の継承」など、多くの分野に関する活動が取り組まれていました。



◆問6 貴団体が主な活動の対象としている人と活動内容を教えてください。  
(複数回答)

活動の対象は、「小・中学生」が最も多く、以下「市民どなたでも」、「就学前児童」となっています。

「高齢者の介護を行っている家族」や「生活に困っている人」の割合は低く、こうした方の支援のあり方も検討していく必要があります。



活動内容については、高齢者に対する「老人ホーム慰問」、一人暮らしの高齢者に対する「給食サービスや訪問・見守り」、小中学生などに対する「登下校時の安全見守り」、「通学路点検」、「絵本の朗読会」、「人形劇」、「学校に行けない子どもたちの居場所づくり」、障がい者に対する「就労支援や啓発活動」、「福祉サービスの情報提供」など、多様な活動が行われています。

その他にも、「海上スポーツの普及」、「郷土料理の伝承」、「夏休みラジオ体操支援」、「健康体操」などの活動も多く行われています。

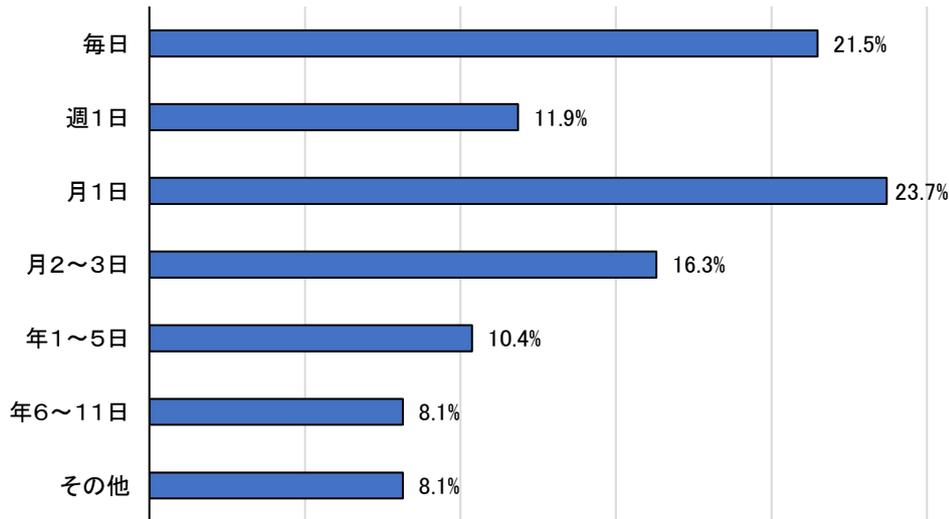


# 1 団体のこと

## (2)活動状況について

◆問7 貴団体は、どのくらいの頻度で活動を行っていますか。(単回答)

活動頻度は、「月1日」が最も多く、以下、「毎日」、「月2～3日」となっています。  
 その他としては、「随時」、「月15日から20日」、「年100日」などとなっています。

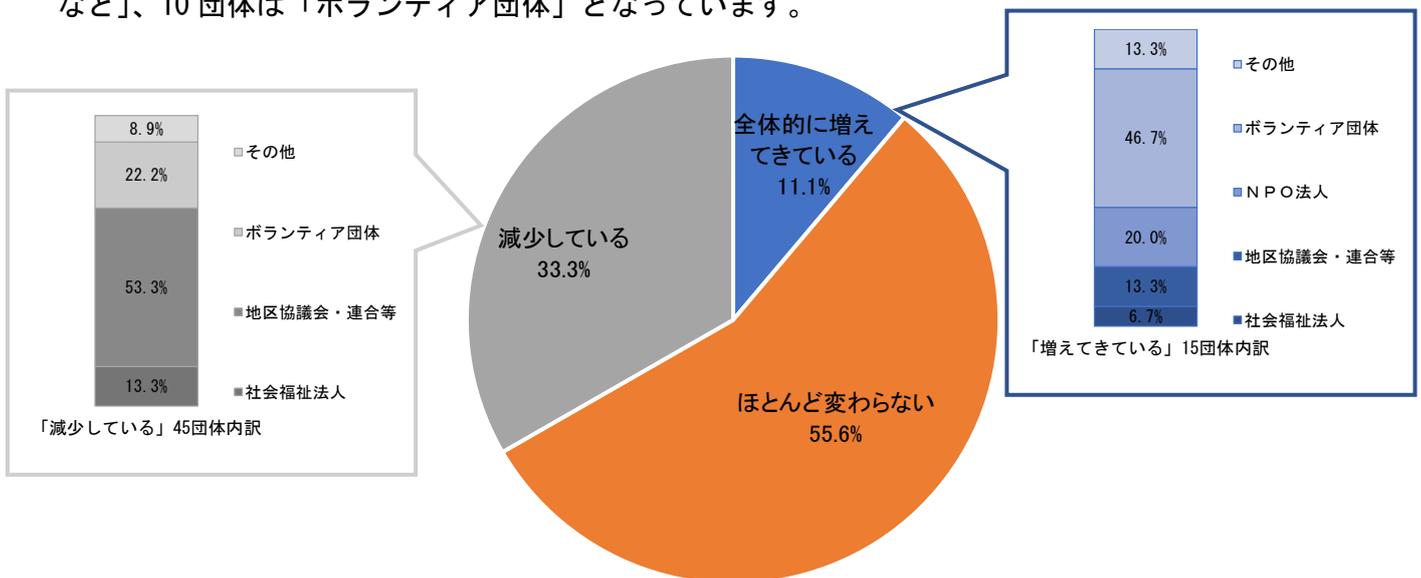


◆問8 貴団体の活動人数の傾向はどうですか。(単回答)

活動人数の傾向は、以下のグラフのとおりです。

「全体的に増えてきている」と回答した15団体中7団体は「ボランティア団体」でした。

「減少している」と回答した45団体中24団体は「地区（校区）などの協議会・連合（連絡）会など」、10団体は「ボランティア団体」となっています。



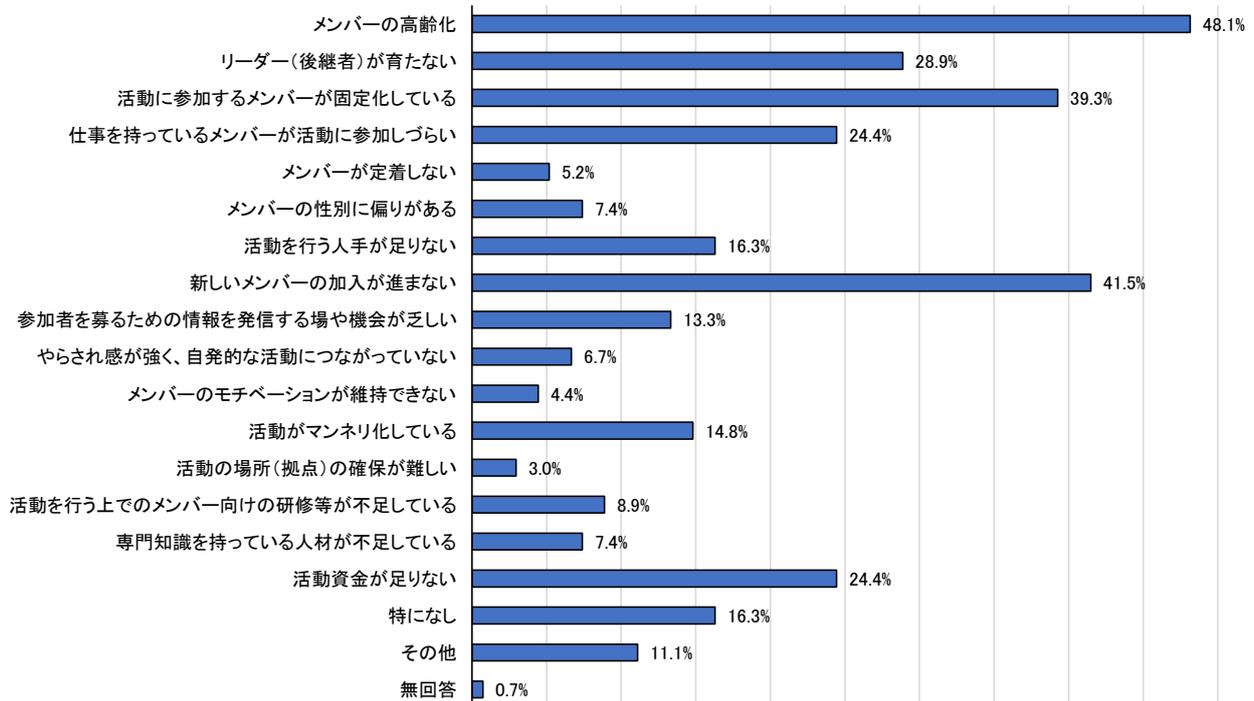
# 1 団体のこと

## (3)困っていることや課題について

### ◆問9 貴団体の運営上や活動上で困っていることや課題は何ですか。(複数回答)

各団体の運営上や活動上の課題は、「メンバーの高齢化」が最も多く、以下「新しいメンバーの加入が進まない」、「活動に参加するメンバーが固定化している」となっており、地域福祉活動の担い手が不足している状況にあります。

その他としては、「活動項目が多すぎる」、「資格取得の支援が欲しい」、「高齢化のため活動の場所までの交通手段が難しい」などの意見がありました。



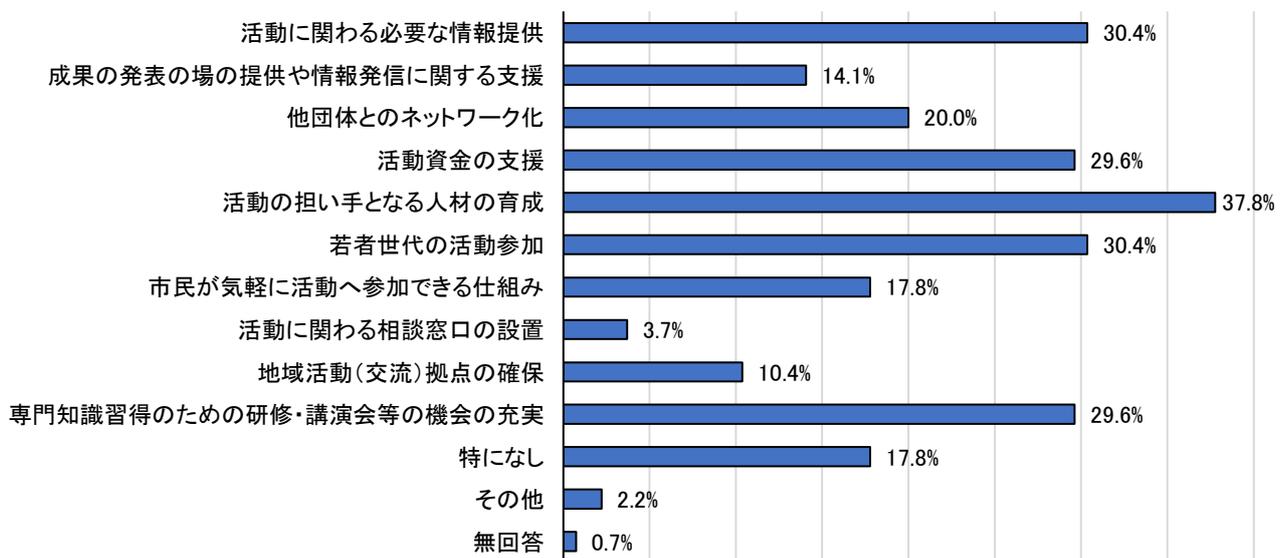
## 1 団体のこと

### (4)活動の活性化に必要なことについて

◆問 10 今後、貴団体の活動を活性化させるために、どのようなことが必要と考えますか。(複数回答)

活動を活性化させるために必要だと思うことは、「活動の担い手となる人材の育成」が最も多く、以下「活動に関わる必要な情報提供」、「若者世代の活動参加」となっています。

また、「活動資金の支援」や「専門知識習得のための研修・講習会等の機会の充実」も多く、人材以外での支援を必要とする団体が多いことがわかります。



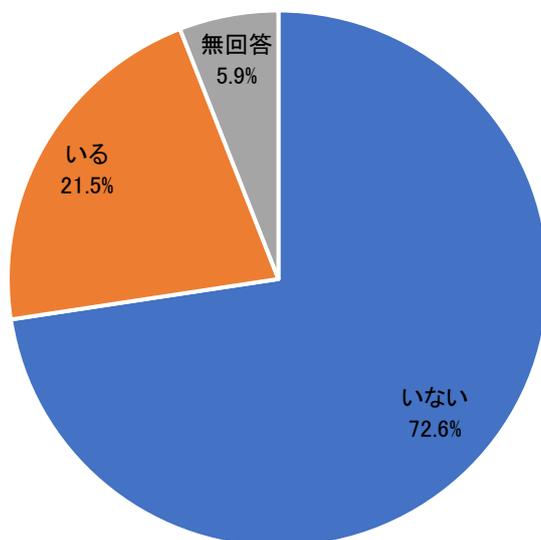
## 2 地域のこと

### (1)地域で気にかかる人・ご意見について

- ◆問 11 活動を通じて、福祉サービスの対象になっていないが、気にかかる人がいますか。(単回答)

福祉サービスの対象となっていない、いわゆる「制度の狭間」にある人が「いる」と回答したのは21.5%となっています。

内容は、「生活に困っている高齢者がいる」、「身寄りのない高齢者」、「人との関わりを持たない高齢者」、「引きこもり、不登校生徒、高齢者の一人暮らし」、「8050 問題を抱えた家庭」、「何の援助も受けていない母子家庭」などがありました。



問11で「いる」と回答された団体にお聞きします。

◆問12 貴団体が対応していることや、ご意見があれば記入してください。(自由記載)

---

#### 一人暮らしの元気な高齢者について

- ・家から出かけることがなく、また訪ねてきてくれる人もない方々へ、何か公的支援がないか。

#### 不登校生徒について

- ・一時的に当団体の活動に参加していた。親子共に苦しんでいる。「ふらっと行ってみようか～」と思える場があれば、回復のきっかけにもなる。

#### 日本語学習が必要な外国人について

- ・日本語で困っている人がいたら、出来る範囲で手助けをしたい。

#### 福祉サービスを利用していない障がい者がいる家族について

- ・家族からの相談を受けたり、助言したりしている。

#### 町内会未加入のため子ども会に参加できない子どもについて

- ・公務員(現役、OB)が町内会に加入し、行動を起こしてほしい。

#### 生活困窮、8050家庭について

- ・支援センターなどを通じてレクリエーション交流、スポーツ交流を月1回広報しているが、まだまだ本当に困って孤立している方たちには伝わっていない。
- ・根本的な対応策がなく苦慮している。

#### 支援を受けていない母子家庭について

- ・月1~2回訪問し、高校生の生活の様子や学習等を確認している。無事に卒業できるように日々励ましている。

#### 引きこもり家庭について

- ・他のグループと協力して定期的に各地でミニコンサートを開催して、孤立しがちな地域の方たちと少しでも交流出来たらよいと思います。現在のコロナ禍で更に引きこもり孤立する方たちがとても心配です。

#### 学校に行けない子どもについて

- ・学校に戻ることを前提としない形で保護者が相談できる行政相談窓口がない。学校以外の場所(家など)で、過ごす時の学習方法・サービスなどの情報を知らせたり相談にのっている。



## 2 地域のこと

### (2)地域の問題点や課題について

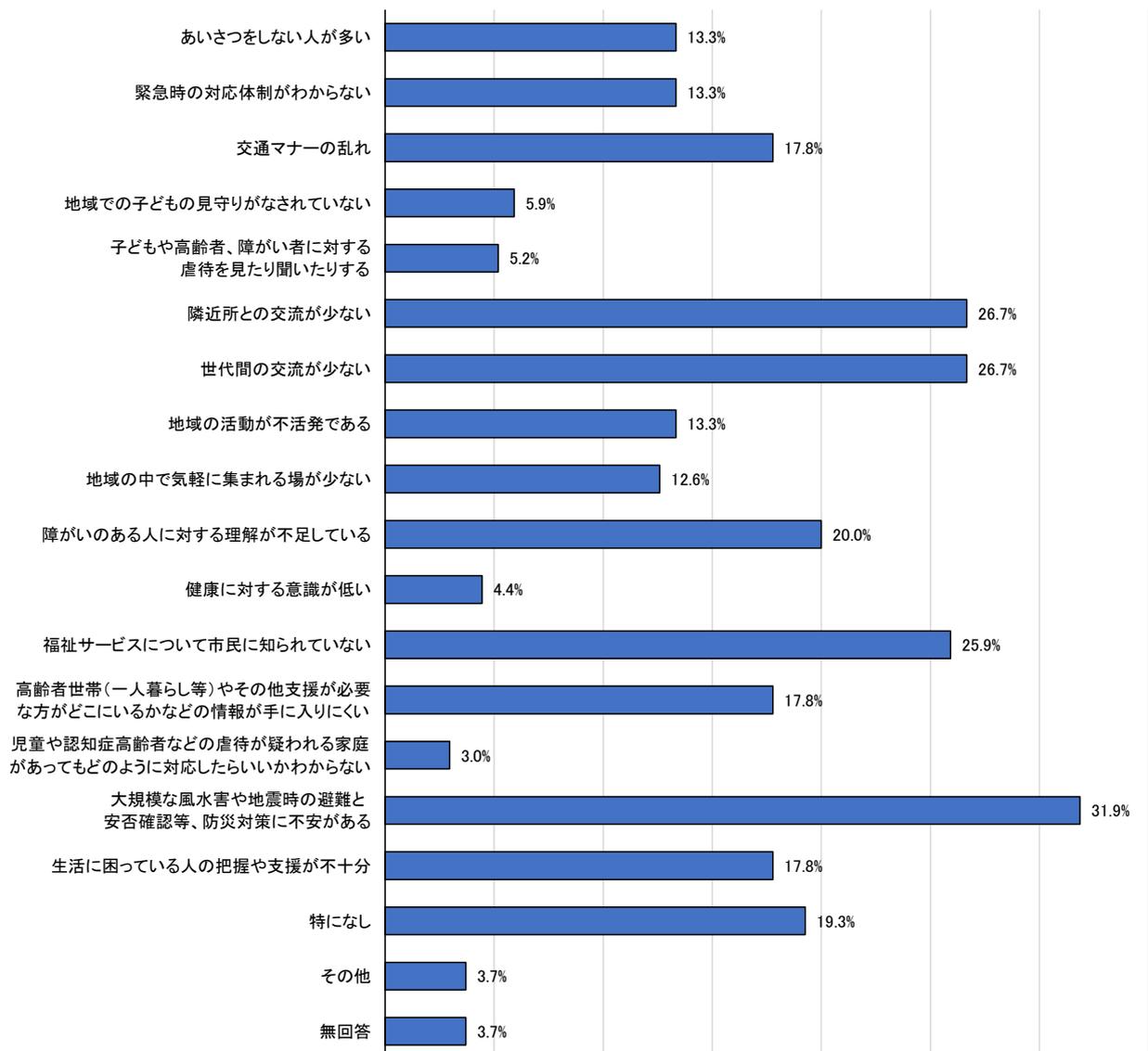
◆問 13 活動を通じて、地域の問題点や課題はどのようなことと考えますか。

(複数回答)

活動を通じて感じる地域の問題点や課題は、「大規模な風水害や地震時の避難と安否確認等、防災対策に不安がある」が最も多く、以下「隣近所との交流が少ない」、「世代間の交流が少ない」となっています。

災害時の対策が課題、とする回答は令和2年3月に実施した市民アンケートでも関心が高く、昨今の自然災害の多発が要因となっていると考えられます。

その他としては、「年齢に関係なく引きこもり者の把握が出来ない」、「問題があった時に何でも行政に頼るというマインドが広がってしまっている」、「行事に参加したくても移動手段がない」などがありました。



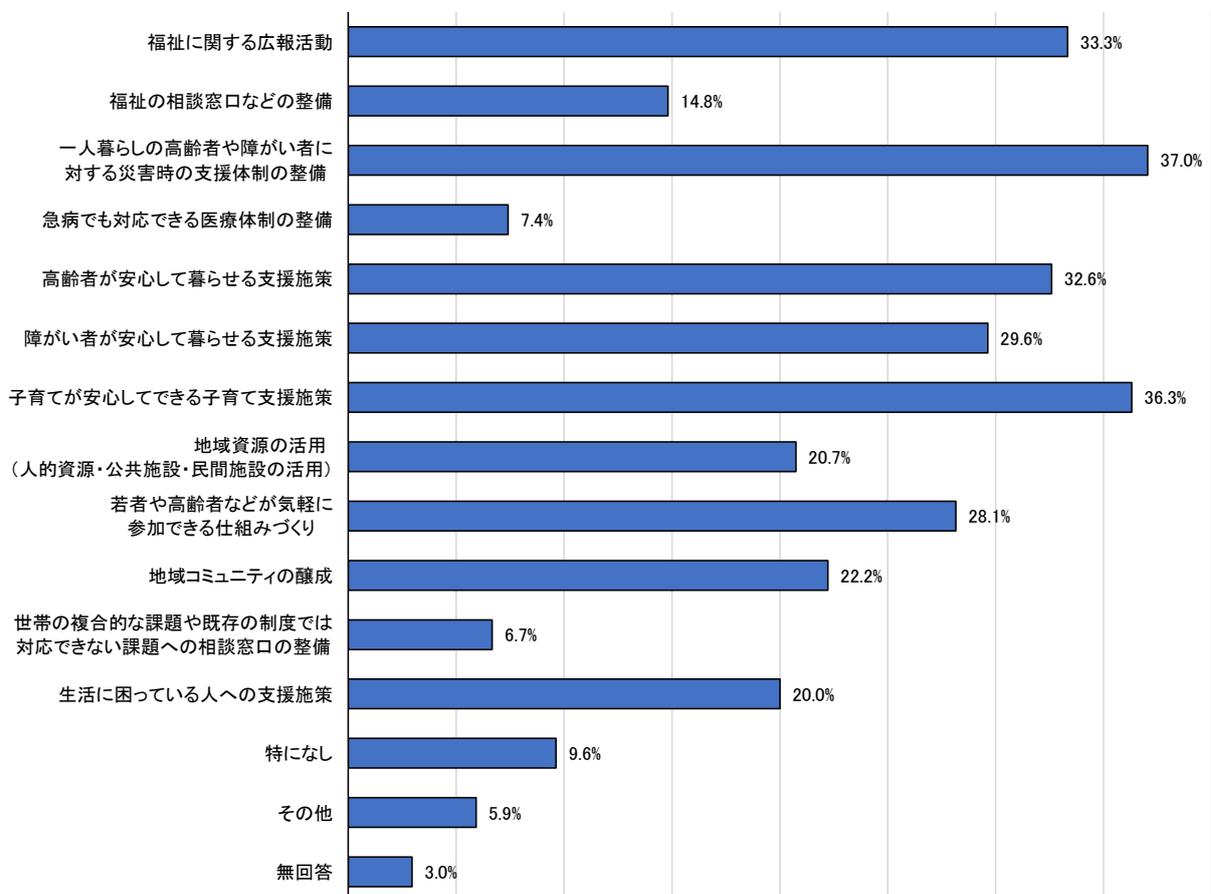
## 2 地域のこと

### (3)地域で力を入れて取り組むべきことについて

◆問 14 活動を通じて、地域で力を入れて取り組むべきことはどのようなことと考えますか。(複数回答)

地域で力を入れて取り組むべきことは、「一人暮らしの高齢者や障がい者に対する災害時の支援体制の整備」が最も多く、以下「子育てが安心してできる子育て支援施策」、「福祉に関する広報活動」となっています。

また、「高齢者や障がい者が安心して暮らせる支援施策」、「若者や高齢者などが気軽に参加できる仕組みづくり」などが求められていることが分かります。



◆問 15 「支え合い」や「福祉について」など、自由なご意見をお聞かせください。

組織形態	内容
社会福祉法人	<p>ひとり親家庭において、生活の安定、収入等に関する取り組みとして、資格取得等の支援をお願いしたい。</p> <p>高齢者の一人暮らしの方への、地域として支え合う環境を整えてほしい。</p> <p>福祉の仕組みの説明がされないまま当団体へ加入している人がいる。</p> <p>以前はよく見えていた福祉の仕組みが今はタブー視されていて、会員の努力が評価されず、今受けている制度は国からの援助であって会の努力は何も伝わらない。</p> <p>以前は身をもってありがたいとか、私のために会員の方の親切が身に染みて嬉しかったが、今はプライバシーばかりに余計なお世話にとられがち。</p> <p>令和2年4月より、子育て支援事業が始まる。新型コロナウイルス流行の影響もあり利用者があまりなかったが、7月に入り少しずつ利用者が増えている。</p> <p>今後、支援事業が広まっていくように活動していきたい。</p>
協議会、連合会等	<p>支え合い、福祉の言葉は大きな言葉だが住民の皆さんがどれだけ意識しているのか。</p> <p>時代が進むにつれて冷たい時代へと進んでいるように感じる。</p> <p>行政の方を向いて考えると、何か市民にこの二つのことに遠慮をしているように感じる。もっと強い発信をしていいのでは。そして心ある世にしていきたいと思う。</p> <p>町内会は隣り近所に住む人たちで自主的に運営されている最も身近な住民自治組織ですが、何か困ったとき、助け合い、助けられ合いができる状況が十分ではないと思います。</p> <p>何も起きないことが一番ですが、いざという時に助け合える体制づくりが日頃から大切ではないかと感じている。</p> <p>公園利用者のマナーが非常に悪い。子どもと一緒に遊ぶのはとても素晴らしいことだと思うが、大人がボールを隣の家や車にぶつけて逃げていく姿を何回も見ただ。公園にも監視カメラを設置すればいいのではと思う。</p> <p>子ども会の活動に対して、親の理解が低い。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民生・児童委員の何たるかを判らない委員が多く、従来どおりに実施している活動についても市からの仕事が多いためとの理由で非協力的になってきている。</li> <li>2. 高齢者の見回り活動が不十分。自分の好きな家は何回も行くが、初回訪問時に先方の機嫌が悪かった家は再訪しない民生委員では困る。</li> <li>3. 民生委員は守秘義務があると思うが、口が軽くて困っている。民生委員はなり手がいないから誰でも町内会長が推薦すれば良いでは困る。他団体長の意見を求めるべきではないか。</li> </ol> <p>個人情報保護法という法律があり、必要な情報が入手困難で災害時の救助等の優先順位が非常に難しくなる。</p>



協議会、連合会等

- ①当団体の活動を行っている町内会長、民生委員等の役員のなり手不足。
- ②メンバーの高齢化(70代~80代)で新加入者が増えないと続けていく事が困難な状況。

楽あれば苦ありで、幸福な生活には共に汗と協働と思いやりが大切。

海を通してのふれあい、子どもペーロン大会、無人島体験、海遊び伝習塾企画運営に携わり、子ども会のみならず、海遊び伝習塾では、ろう学校の生徒の参加もしていますが、海の活動拠点(海の駅)がない。

活動の幅を広げるため必要と思われる資格の取得、安全面での支援団体、装備品購入し、必要な訓練をしています。

現状維持では衰退しかないとされるためにも、新しいチャレンジが必要と思い、子ども会から海の行事に。

- ①お茶飲み仲間を作り、公民館カフェの普及支援をお願いしたい。
- ②高齢者スポーツは活発に行われているが、軽い障がいを持つ方のスポーツの普及もお願いしたい。

高齢者で運転免許証の自主返納を考えている老人は多いが通院、買い物等で不安に感じて、踏み切れないでいる。

交通弱者への支援策(例えば格安タクシー券等)をお願いしたい。

地域福祉の一翼を担う民生児童委員は、日々研修研鑽に努め、地域住民の一人として、温かく見守り良き相談相手としてこころの解り会える活動を目指している。我々民生委員同士も1期3年で退任することなく2期3期と支え合っていかなければ十分な福祉は出来ないと考えている。

自主防災組織を立ち上げた町内の要支援者に対する町内の共有をどこまで出来るのか難しい。

当地区の社会福祉協議会は、民生委員児童委員、主任児童委員を中心に活動をしています。この民生委員さん方は福祉の中身をよく把握しており経験も豊富ですが、私は全くの素人で何も解らないまま時間が過ぎていき、そのギャップの大きさを強く感じています。

何とか少しでも役に立てないものかと思うが、福祉の広さ深さを益々感じる日々です。

今年も梅雨時期を迎え、自主防災「自分の命は自分で守る」は基本ですが、これからは「自主福祉」つまり、自分の老後をどうするのか、誰にどうしてもらいたいのかを決めておく必要があると思います。

家族で、このような話はギクシャクして話しにくい部分はあると思いますが、これからの時代「自主福祉」は最も大切なことになると思います。これからも社協の一人として精一杯頑張ろうと思います。

私は松葉杖と車イスを利用してありますが、ゴミ出し日に家の前にゴミを出すと、小学校4年生男の子が指定の場所に通学時に出してくれます。

また、車からの車イスの出し入れを見知らぬ人がよく手伝っていただきます。本当に感謝しています。

車イスを使用してみて、段差や斜面が多く大変です。



協議会、連合会等	<p>大村市は人口増やポートの売り上げにより経済的には安定した自治体であるが、福祉や教育にける予算は低いように思う。</p> <p>市の幸福度、満足度はこの教育と福祉の充実にかかっているの、きめ細かい予算を組んで、密度の濃い施策を展開してほしい。</p> <p>市の取り組みが一般市民に伝わっていないのを感じるの、積極的に情報を発信し、福祉・障がい等について意識、関心を持たせるようにしてほしい。</p> <p>今後、新しい世代と古い世代との交流の深化が求められてくるので、その対応を考えていくことが必要である。</p>
福祉関連民間事業者	<p>会に未加入の障がい者が多くいると思いますが、加入者が少ないので障がい者の情報を教えていただけないかと思います。</p> <p>個人情報保護のため難しい面があるかと存じますが、何か良案はないでしょうか。情報があれば募集したいと思います。</p>
特定非営利活動法人(NPO法人)	<p>福祉関係の手続きが複数個所で出来るようになれば助かる。</p> <p>当施設利用者で一般就労されている方が平日の日中に仕事の合間を使ってプラットおおむらまで行くのは時間的に難しい。</p> <p>子育てや高齢者支援等の相談に対していつでも受け入れできるよう、窓口を広めていきたいと思っています。</p> <p>地域の「支え合い」や「福祉」を自分の仕事としてやりたいという人を庁内で募り、その人を担当にして行政サービスを提供すること。</p> <p>3年で人が入れ替わって特にやる気があるわけでもない人が担当になって「支え合い」や「福祉」に関わっても、現場の人は行政への不信感しか感じなくなる。</p> <p>やる気がある人に担当させる(続ける)仕組みを作るべき。やらされている人に期待しても何も返ってこないし、作った人たちの意思も引き継げない。</p> <p>コロナの影響で親子間のコミュニケーションのあり方が、子どもにとってさらに大きな影響を与えていると思います。</p> <p>親が子どもの成長をサポートできる関わり方への支援が大切になると考えています。</p>
ボランティア団体	<p>「支え合い」や「福祉について」は、私共のような特定の疾患の患者だけと決めつけず、人は皆、年を重ねていくと、病名こそ違え、支え合って生活をしていかなければならないのではないかと、活動を通じて実感しています。</p> <p>行政の方でも、それぞれ大変とは思いますが、今後とも温かいご配慮を一層いただけると嬉しいです。</p> <p>全ての人が働ける地域にする。病後でも両立できる働き方。障がいを持つ人も、強みを生かした働き方。元気な人がワークライフバランスを考えた働き方に。家庭参画しやすい仕組みをつくる。</p> <p>タブーを作らず話し合いで物事を進めたい。</p> <p>持続可能な開発目標(SDGs)の観点から、日本の進捗状況と大村市での順位はどこにあたるのか、取り組んでいること、新しい生活様式に生かす道をお示しいただくとありがたい。</p> <p>会員同士の融和を図り、技術の向上を目指して頑張って練習に励んでいます。</p> <p>地域の催し事に積極的に参加しています。</p>



シニア世代のセカンドデビューを支援する組織として 13 年前に発足した。

だが、今になっては世の中の活動が多種多様なものにあり、今後どのような活動を進めていけば良いかいろいろな課題を抱え悩み多い。

会のメンバーも仕事を持っており、定例会などの日程調整も難しくなっている。新加入者を増やすための手当が見つからない。高齢化しているなど課題も多い。

老人でも歩いていける範囲の所に老人から子どもまで気軽に集える場所があり、それを広報してほしい。

大村市も昔に比べて、隣り近所の交流が減り、大都市並みに「隣は何をする人ぞ」と顔さえ知らない家もあります。私なりに努力はして顔を合わせていますが、災害時や事故、病気等万一の時にもものすごく不安です。

人口も増え、町内も大人数なので、ここらで分割し、もっときめ細やかに交流する工夫が必要です。

それには会費を収入に関係なく払える金額にしないと、困窮世帯は離れます。「広報おおむら」は公共施設に置いてあるけど、すぐなくなりもらえていません。益々地域の情報は伝わりませんね。

私は「障がい者も地域生活でー」という流れの中で、老人だけでなく、障がい者も安心して自分の家で生活できる体制が(経験上)至急必要だと痛感しました。

孤独死はしょうがないとしても、孤立死がないような地域での思いやり支え合いの地域の絆づくりが大切だと思って活動しているが難しい。

日本の将来が思いやられる。子どもの頃は目上の人、大人には誰にも挨拶せよと教えられた。しかし、昨今の子ども達は立番中の私が「おはよー」と声をかけても返事なし。今の先生には子どもを叱るのがタブーなようだ。

元気におはよう、こんにちは、と言える子どもに育ててほしい。毎日繰り返し繰り返し声掛けをやっている現状です。

今まで自助会の中で、WRAP※など、当事者目線での研修会を行い、お互い当事者同士で支え合ってきました。

メンバーがひとりひとりの生きてきた足跡を発表できるような発信をやっていきたいです。障がい者の生き方は他の人の勉強にもなり大いに活かしてほしいです。「発信の場」いただけると嬉しいです。

※補足追記

「WRAP(ラップ)」とは、Wellness(元気)、Recovery(回復)、Action(行動)、Plan(プラン)の頭文字を取ったものです。毎日を元気で豊かに生きること、さらに、気分を乱すような状況への気づきを高め、調子が悪くなったときに回復を促す行動プランです。

施設、公民館などに市より体操や健康の情報など動画、配信ができればその日に合わせて声掛けしたり、高齢者が集まれる機会を増やしていける。

富の原に住んでいるのですが、公民館はなく体育館であり、なかなか使い勝手が悪く、平日は借りる方(お金を払う方)中心です。何か良い方法がないかと思っております。

高齢者も元気なうちは支え合いや福祉については積極的に参画すれば、本人も地域も活性化することは間違いないと思います。



<p>ボランティア団体</p>	<p>私達の活動はボランティアの人々が固定化しているようです。私たちは誰でもボランティアに参加しやすいように口伝えや誘っていますが、なかなか参加してくれる人がいない。</p> <p>今のところ高齢の人ばかりで(中には何人か若い人がいますが)今後早く引き継いでくれる人を探さなければと常に皆さんと話しています。高齢の人を支える人を探していますが、私たちの努力、説得力がないのか本当に寂しい限りです。</p>
	<p>現状では行政が全て解決する、対応するのは難しい所があると思う。</p> <p>もっと民間の力を利用するよう考えていっていいと思います。私のグループで言えば、今は食堂に来る人にもみ食事を提供しているが、本当は引きこもりの人などに配達したり、訪問したりしたいのですが。人的、資金的に難しい。</p>
	<p>有償ボランティア制導入による人員確保</p>
	<p>ボランティア団体として活動しています。子育て支援として乳児、幼稚園、保育園、障がい児との関りが主です。</p> <p>年に2回行政の催しの中で展示を行うことがありますが、未だに知名度は低く、若い方々には驚かれます。発表の機会があれば、活動への育成につながるのではと思います。</p>
	<p>支え合いは地域内のコミュニケーションから自然に生まれるものだと思います。各々の意識の中にいわゆる「小さな親切」を常に持ち続けることが必要だと思います。</p>
	<p>地域福祉に携わって1年になりますが、地域でこういう活動が「ある」「している」ということを知りませんでした。</p> <p>内容、活動の意味なども少しずつですが、分かってきました。携わっている人しか知らず、一般的に知っている方が少ないと思います。そういう点でも広報活動は必要かと思っています。</p>
	<p>高齢化社会で70歳代でも元気にお世話できる人、そうでない人、共に支え合えるコミュニケーションの場をもっと広くアピールして利用しやすい環境作りが必要ではないかと思っています。</p> <p>例えばふれあい館ですが、曜日毎に催しが変わります。それぞれにグループが出来ているように見受けられ、ポツときた人には入りにくい雰囲気があります。</p> <p>もっと誰でも来て楽しく時間を過ごせる場所作りをしてお互いにいたわりあって支え合えるようになってほしい。</p>
	<p>もう少し小さな地域の小グループにも行政の光を当ててほしい。経済的支援等があればなお良いと思う。</p>
	<p>もう少し人員が増えるようにテコ入れをしてほしい。</p>
	<p>支え合うためには、「知る」ことが大切。高齢、独り住まい、子どもが自分の町内のどこに存在するのかを町内会長、民生委員、子ども会育成会長、老人会会長は知っておかなければよりよい活動が進んで行かない。</p> <p>また、「支え合い」も進まない。子どもと高齢の方がつながる仕組みも考えたい。子どもは非力ながら、元気、活力のパワーを伝える力は大きい。「子ども会」は町内の元気にもつながる。</p>



子どもは、親から離れて過ごせる居場所があることも大切です。寄り道をしたり、学校で遊んでから帰ることが少なくなっている子ども達。異年齢で遊ぶことも少ないです。公民館をなるべく開放して、地域の子どもが集える場所になると良いと思います。(世話する人が必要になってくるわけですが。)夕方、公民館に寄って、宿題を済ませて家に帰ることができれば。上の学年の子が分からないところを教えてあげるとか、教え合うとか。ちょっと遊んで帰るとか。

また、地域のおじいちゃんおばあちゃんに学校での出来事を話す機会があるとか。当団体の文庫は、月2回(土曜日午前中)開けていますが、異年齢の子どもの交流もあり、子どもの居場所になっていると感じます。

どの公民館でも、何かを目的に子どもたちが月1回でも集まってこられるようになれば良いなと思います。

「子ども食堂」も頑張ってくれています。公民館ごとに「子ども食堂」が開催できればいいと思います。(公民館の催しとして各町内が取り組む。)そのための資金は市から渡して。

「子ども会」が一つでも復活するように町内も頑張りたいです。子どもが子ども同士で知り合うことも大切です。

ボランティア団体

「子育て支援」「高齢者支援」などがありますが、核家族化が進んでいる今、世代間交流が減ってきているように思います。

子育て世代と高齢者がお互いに支え合うしくみや交流が必要だと思います。

私自身、子育て中で大変だった時、知らない方からでもちょっとした優しい声掛けをしてくださり嬉しかった思いは今も忘れません。

子育て中の方が大変そうな時、ちょっとだけ声掛けとか、雨の日に歩行者のそばをスピードを緩めずに通過して雨水をひっかけていく車のマナーなど、ちょっとした一人一人の思いやりで、支え合い、いい街づくりになるのではないかと思います。

子育て中は子どものことばかりで、自分の体のことは後回しになるママが多いようです。新米ママの(特に妊娠から生後1歳位)親子ヨガや体操、心身の支援もいろいろな支援センターはあると思いますが、電話相談やわかりやすい施設整備をお願いします。

地域の保育園、幼稚園、小学校、中学校で私たち市民が、気軽に交流し、教育のお手伝い出来るようなボランティアのシステムがあるとよいと思う。

たとえば、放課後、勉強をみてあげたり一緒に遊びながら見守りなど、地域でつながりあえたら孤立しがちな人たちとも交流しやすいと思います。

(東京では放課後伝承遊びサークルを週一で実施している地域もあった。)

現在はコロナ禍で参加者もボランティアも少し消極的ですが、私たちのグループは、地域の居場所としてスポーツやレクリエーションを通して交流し、寄り添うことで、お互いの困っていることを把握し、行政などのサービス機関に連絡することが可能です。孤立する人たちを減らすには、もっと市の広報などで、広く周知していく必要があります。障がいのある人もない人も困っている人は孤立しがちです。

これからもお節介を続けたい思う。



ボランティア団体	<p>支え合いや福祉について、地域のご近所力が一番大切だと思います。</p> <p>また、ボランティアの方々。ボランティアセンターに登録をして、毎年活動助成金の補助がありますが、最近登録した私たちは、すでに毎年補助金で活動しているグループの補助金を目減りさせるのではないかと補助金申請を遠慮しています。</p> <p>補助金全体の額が決まっていて申請する団体に分ける形ではなく、申請団体の数によって補助金額を決めてほしいと思っています。</p> <p>いまのかたちでは、自ら活動するボランティアグループが増えません。自ら活動するボランティアグループの力が支え合いや福祉の充実を生みます、市民全体がいきいきします。自ら活動するボランティアが増えて支え合いが充実する大村になりたいです。</p>
----------	---

**アンケートへのご協力ありがとうございました。**





大村市役所 福祉保健部 福祉総務課

〒856-8686 長崎県大村市玖島1丁目25番地

TEL(0957)53-4111 FAX(0957)52-6930

HP <https://www.city.omura.nagasaki.jp/>



おおむら支え合いプラン

🔍検索

